

教p315~ 回p257

世界分割と列強対立

アフリカの植民地化

— 回p257の地図のアフリカ南部の矢印(青と紫)

19C後半… (英:リヴィングストン 米:スタンリー) の探検→列強の関心高まる
ベルギーの(コンゴ) 領有をめぐる争い (1880年代前半)

(ベルリン会議) (ベルリン=コンゴ会議) (1884~85) ←1878のベルリン会議と混同

忠実な仲介者(ビスマルク)の登場

(コンゴ自由国) はベルギー王領(国王:レオポルト2世)として承認

分割のルールづくり…(実地支配) 原則→境界の画定と行政・治安機構の設立
以後、ヨーロッパ列強の進出が激化 *しかし各地で抵抗運動激化

イギリス(縦断政策)…(3C)政策の一環

北から エジプト保護国化(1882)…(マラバー)の乱を鎮圧

スーダンに侵入→(マファデー)派の抵抗運動激化(~1898)→鎮圧
ハルツームの戦いで(ゴードン)将軍を破る

東アフリカ(現ケニア)(1885)

南から(ケープ植民地)…ウィーン会議で(蘭)領から英領へ
首相(セシル・ローズ)

(南アフリカ戦争)(1899~1902)…蘭人子孫(ボーア)人との争い
原因:金や(ダイヤモンド)発見

結果:(オレンジ自由国・トランスヴァール共和国)征服
(ローデシア)占領

後にイギリス領(南アフリカ連邦)として成立(1910)

フランス(横断政策)…インド洋に進出

(アルジェリア)(1830)・(チュニジア)(1881)をおさえて(サハラ)に進出

仏領(ジブチ)(1888)・(マダガスカル)(1896)と連結

英仏対立(ファシダ事件)(1898)

(イム)が譲歩→スーダンは(英)領 } 以後、英仏接近
(英仏協約)(1904) ← why?

ドイツ(トゴ・カメルーン・南西アフリカ・東アフリカ(タンガニカ))

ヴィルヘルム2世の世界政策→二度の(モロッコ事件)

(タンジール)事件(1905)…翌年の(アルヘシラス)会議で独主張を却下

(アガデール)事件(1911)…独は仏領(コンゴ)の一部を得て敗退

結果:英の支援を受けた仏の勝利→モロッコは仏の保護国(1912)

イタリア エリトリア・ソマリランド→(エチオピア)侵略→アドワの戦いで敗北

伊土戦争→リビア(トリポリ・キレナイカ)獲得(1912)

独立国(エチオピア帝国・リベリア共和国) リベリアの首都は(モンロビア)

列強は人為的に境界線を定め、交易網を破壊したので、その後の大きな障害となる

回p258~259

太平洋諸地域の分割

イギリス(オーストラリア)…自治領化(1901)

流刑植民地→金発見→移民増加→先住民(アボリジニー)を追う

(ニュー・ゼaland)…自治領化(1907)

(マオリ)人の抵抗を鎮圧 その他(ニュージーランド)の一部

ドイツ(ビスマルク・カロリン・マール・アリヤナ・パリオの各諸島)

→第一次大戦後、(日本)の委任統治領

アメリカ 米西戦争(1898)→(フィリピン・グアム)領有

(ハワイ)併合(1898)…米入植者たちが(リリウオカラネ)女王を廃位

教p319

ラテンアメリカ諸国の従属と抵抗

19C前半の独立後は、諸勢力の対立や軍部のクーデタなどで、混乱や対立が続く

19C末になると欧米諸国の進出…アルゼンチン(牛肉)・ブラジル(コーヒー)・チリ(硝石)

アメリカ合衆国の圧力

(パンアメリカ)会議(1889)…「米大陸の連帯」の下に影響力拡大

(米西戦争)(1898)以後(カリフォルニア)政策や(根柢外交)を推進

キューバ憲法に(プラット条項)→保護国化(外交権を制約し、内政干渉権を得る)

パナマを(コロンビア)から独立→運河建設→パナマ運河完成(1914)

メキシコ

回p224(フランス)(1867~72) ナポレオン3世の(メキシコ出兵)を排除

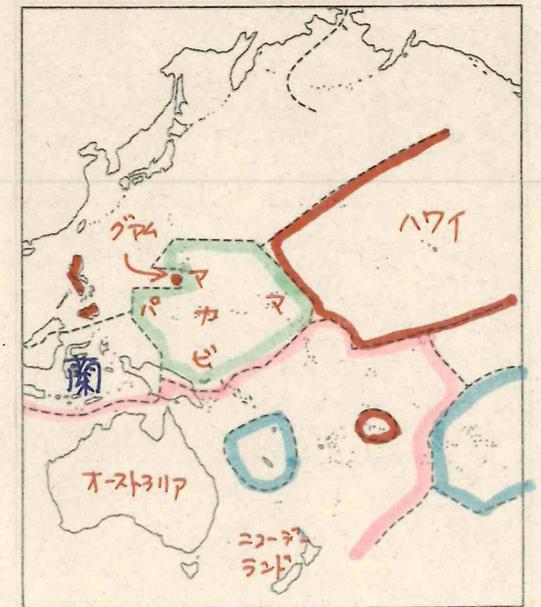
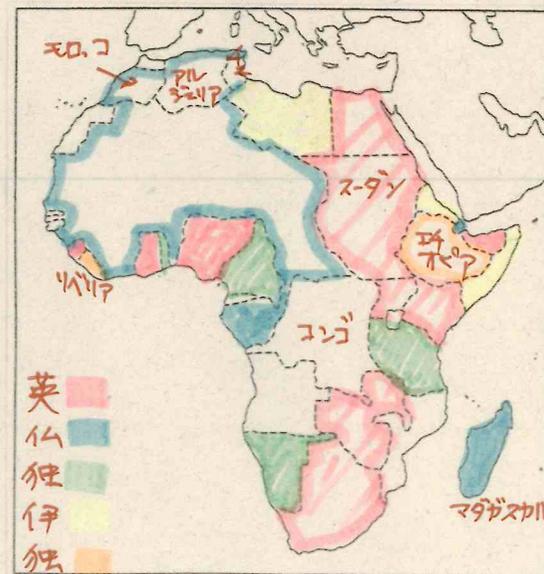
(ディアス)(1877~1911)独裁化…米資本導入・鉱山開発などの近代化

しかし、貧富の差拡大、農民の貧困化

(メキシコ革命)(1910)…(マデロ・サハタ)がディアス打倒

民主的憲法…政教分離・大統領制

ブラジル…奴隷制廃止(1888)、帝政から(共和政)へ移行(1889)



英 仏 独 米